

第4回 伊勢便教会

平成28年8月13日（土）

8月13日（土）、三重県松阪市立久保中学校にて第4回伊勢便教会を開催させていただきました。昨年の8月23日（日）に鍵山相談役をお迎えして第1回を開かせていただいてから1年が経とうとしています。

この便教会の前に山口県で行われた第11回鍵山教師塾に参加させていただきました。鍵山相談役は体調の悪い中、約10分の講話のためだけにわざわざ東京より飛行機でお越しいただきました。そのお姿を拝見できただけ心がそして気持ちが一杯になりました。相談役のそこまでする「想い」を感じ、その「想い」に応えられるだけのことを我々はできているのだろうか？実践を積み重ねることができているのだろうか？もう一度原点に立ち戻り、そして自分自身の現在の立ち位置を確認し、できることをできる範囲でやっていきたいと思いました。

さて、当日はお盆ということもあり3名で行いました。これまでは、県外の先生方のお力や掃除に学ぶ会の方々のお力をお借りしてのトイレ掃除でしたが、今回は県内の先生のみで行いました。大切にすることは「まずやってみる」ということです。方法や道具はたくさんあります。でもその前に大切なことは「やってみる」ことです。実際に汚れに直面し、その汚れにどのように向き合っていくのか。そこが大切だと思うのです。今回は少人数ということもあり、「自由に、やりたいように、思う存分」与えられた時間の中でトイレ掃除に没頭することができました。そうすると、「やらなければならない」という受信的な感覚から「こうしよう、ああしよう」、「こうしたらどうだろうか」というような発信的肯定的な感覚へと変わっていくことが分かりました。そして、終わってから自らの振り返りをしながら、自分が疑問に思っていること、どうしたらいいか分からないことなどを体験発表で話してもらいました。

「教える－教えられる」から「気付く－気付かせる」へ

以前読んだ本の中にこのようなフレーズがありました。非常に「受信型」の人間が多くなっている今、大切なことは「発信型」の人間を育成していくことが重要だと思います。トイレ掃除においても、自分がどこに「気付くのか」。そこに焦点がいった時に、何年経験しているとか、初めてのとか、そんなことは関係なく、誰にでもそれぞれに「学びや気づき」があると思います。そのような実践を通して、自分自身の「位置」「レベル」を知り、掃除道を深めていくことを通して、それらを上げていくことをこれからも大切にしていきたいと思います。

<参加者の感想>

僕自身、久しぶりのトイレ掃除でしたが、これで4、5回目ということもあり、すんなりと活動に入ることができました。初めての時は色々と戸惑ったことばかりだったのに、自分の変化に驚きました。今ではこの活動だけでなく、日々の活動の中で掃除に対する取り組み方に変化が出てきたように思います。本当に皆さんに感謝です。また、今回少人数であったのですが、活動内容はいつもと変わることなくしっかりできていることに皆さんの意識の高さを感じました。毎回毎回感じているのですが、ただ無

心に掃除に没頭することで、日々感じることのできない爽快感を感じることができるのも、この活動ならではののだと思います。教員としても、大人としても、こういう活動を通しての爽快感を子どもに教えてあげることのできる人間を目指していきたいと思います。

第4回伊勢便教会に参加させていただきました。参加者3人という少人数でしたが、ただ便器に向かい、自分と向き合うことはいつもと変わらず行うことができました。便教会への参加が久しぶりということもあり、手順に戸惑うこともありました。また、掃除後の反省会において、全国各地で活躍されている先生方の話を聞き、自分の甘さも感じました。しかし、今、ここで自分に出来ることを続けていくことは、今まで通り自信を持ってやり続けていきたい、そして変化成長も常々考えていきたいと思いました。

